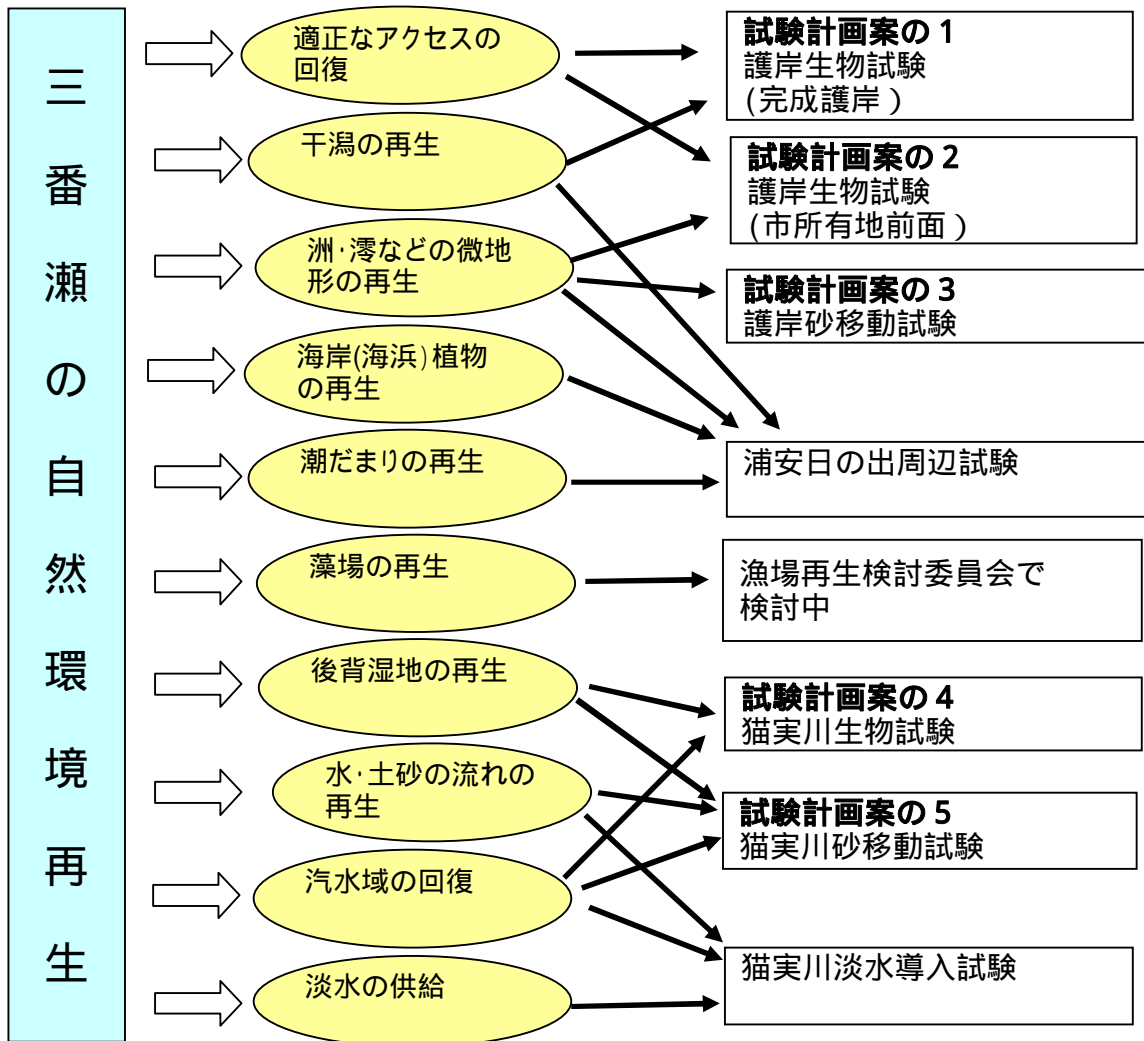


干潟的環境(干出域等)形成等の試験計画案について

再生の目標と試験案の関係



3. 護岸砂移動試験

- (1) 干潟の再生
- (2) 洲・淺など干潟の微地形の再生(海側)

1. 護岸生物試験(完成護岸)

- (1) (開放的な場での)干潟の再生
- (2) 適正なアクセスの回復

4. 猫実川生物試験

- (1) 小河川の再生(生物の視点、中流域)
- (2) ヨシ原・塩湿地の再生

参. 猫実川における淡水導入試験

- (1) 汽水域の回復(生物定着の視点)
- (2) 小河川の再生(生物の視点、上流域)

5. 猫実川砂移動試験

- (1) 小河川の再生(場の安定の視点)
- (2) ヨシ原・塩湿地の再生(場の安定の視)
- (2) 洲・淺などの微地形の再生(川側)



2. 護岸生物試験(市所有地前面)

- (1) (やや閉鎖的な場での)干潟の再生
- (2) 適正なアクセスの回復

参. 浦安日の出周辺における試験

- (1) 干潟の再生(潮だまりの視点)
- (2) 海と陸との連続性の回復
- (3) 海岸(海浜)植物の再生

試験計画案1 市川塩浜2丁目護岸前面における生物試験(完成護岸前面)

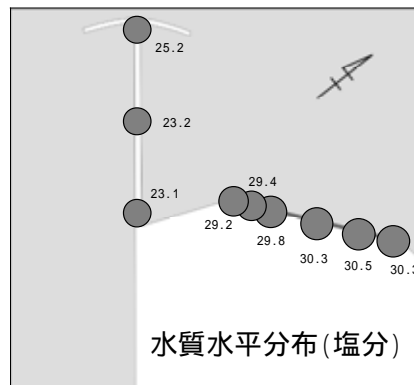
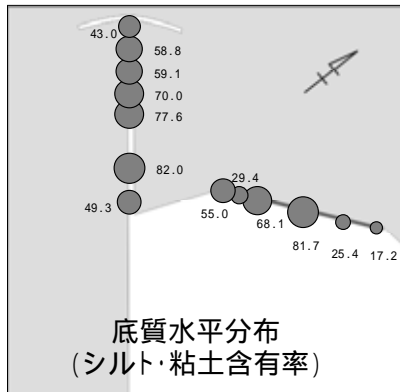
1 試験目的

塩浜2丁目護岸の完成護岸前面を利用して、石積み護岸前面での干潟形成の検討のための基礎資料を得る。(生態系を壊さないで生物定着を見る。砂は動かない。塩分濃度が普通、周辺底質が砂質の状況での最適高さ、材料を探す。)

2 試験項目

- (1)地盤高、底質別の生物の加入状況及び定着状況
- (2)地盤の安定性

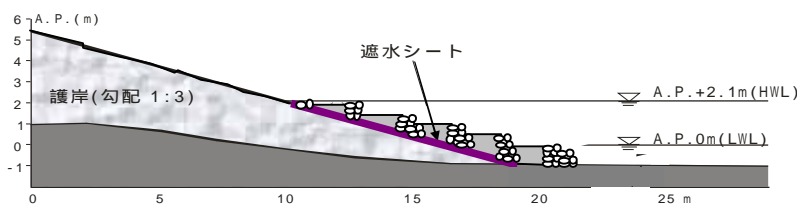
3 試験場所

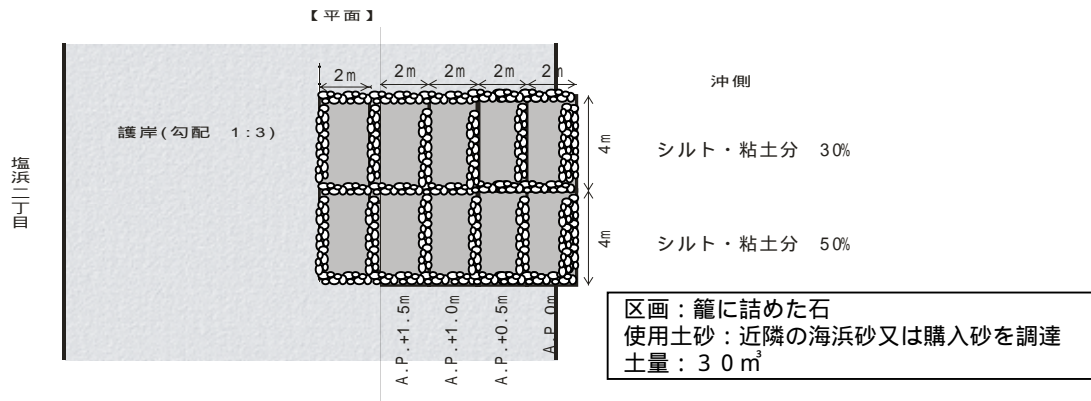


4 試験方法

市川塩浜2丁目の完成護岸前面にA.P.0m～A.P.+2.0mまでの5つの地盤高及び2種類(シルト・粘土分30%、50%)の底質の合計10試験区を設置し、地盤高の違い、底質の違いによる生物の加入状況及び定着状況を見る。また、試験区の地盤の安定性についても確認する。試験期間は生物の加入状況や砂の拡散状況をみながら、試験の継続を判断するが、最長で3年間とする。

【断面】





5 モニタリング計画

調査項目		頻度
底生生物	カニ類等大型底生生物	4季
	マクロベントス	4季
	附着生物	4季
底質	粒度組成、酸化還元電子、強熱減量、含水比、COD、硫化物	4季
水質	水温、塩分、DO、T-N、T-P	4季

6 試験でどんなことがわかるのか

- (1) 砂は動かない。塩分濃度が普通、周辺底質が砂質の状況で、どんな高さ、どんな底質がどの生物に適しているのかを探す。

7 試験結果を生かした目標イメージ

- (1) 干潟の再生
- (2) 適正なアクセスの回復



試験計画案2 市川塩浜2丁目護岸前面における生物試験(市川市所有地前面)

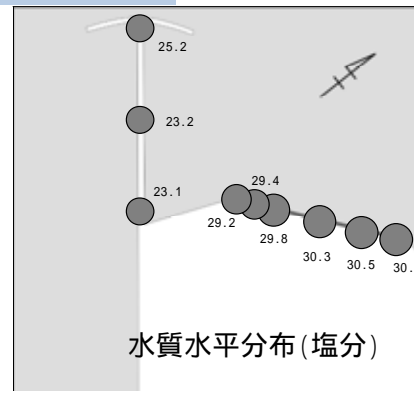
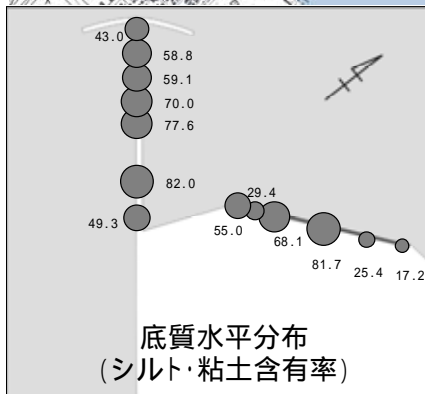
1 試験目的

塩浜2丁目護岸の市川市所有地前の直立護岸前面での干潟形成の検討のための基礎資料を得る。(生態系を壊さないで生物定着を見る。砂は動かない、塩分濃度が低め、周辺底質がシルト質の状況での最適高さ、材料を探す。)

2 試験項目

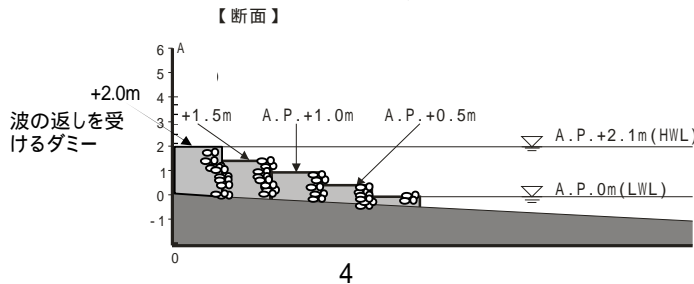
- (1) 地盤高、底質別の生物の加入状況及び定着状況
- (2) 地盤の安定性

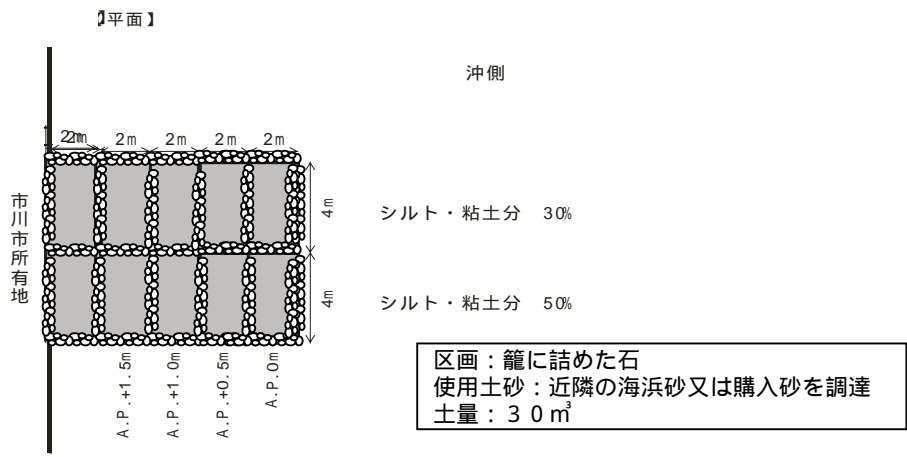
3 試験場所



4 試験方法

市川塩浜2丁目の市所有地前面の直立護岸前面にA.P.0m ~ A.P. + 2.0mまでの5つの地盤高及び2種類(シルト・粘土分30%、50%)の底質の合計10試験区を設置し、地盤高の違い、底質の違いによる生物の加入状況及び定着状況を確認する。また、試験区の地盤の安定性を確認する。試験期間は生物の加入状況や砂の拡散状況をみながら、試験の継続を判断するが、最長で3年間とする。





5 モニタリング計画

調査項目		頻度
底生生物	カニ類等大型底生生物	4季
	マクロベントス	4季
	付着生物	4季
底質	粒度組成、酸化還元電子、強熱減量、含水比、COD、硫化物	4季
水質	水温、塩分、DO、T-N、T-P	4季

6 試験でどんなことがわかるのか

- (1) 砂は動かない、塩分濃度が低め、周辺底質がシルト質の状況でどんな高さ、どんな底質がどの生物に適しているのかを探る。

7 試験結果を生かした目標イメージ

- (1) 干潟の再生
(2) 適正なアクセスの回復



試験計画案3 市川塩浜2丁目護岸前面における砂移動試験

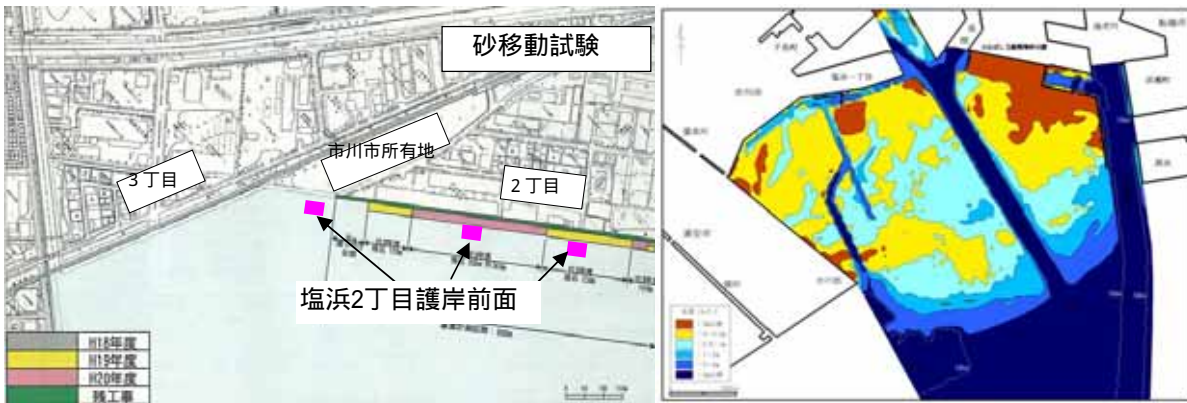
1 試験目的

塩浜2丁目護岸の海域に砂を盛り砂の移動を観察することにより、洲・澗などの干潟の微地形及び干潟形成の検討のための基礎資料を得る。(波、海流の異なる各地点で砂はどの位移動するのか。(範囲、量)、移動する砂にはどのような生物がつかか。)

2 試験項目

- (1)砂の移動状況
- (2)移動する砂につく生物相の確認

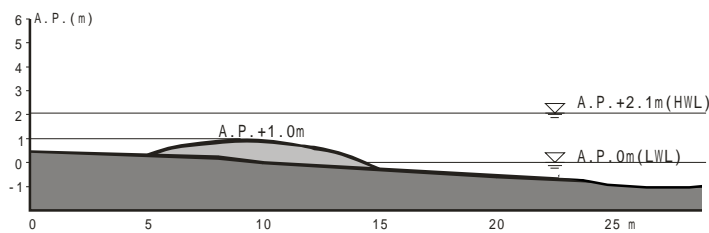
3 試験場所

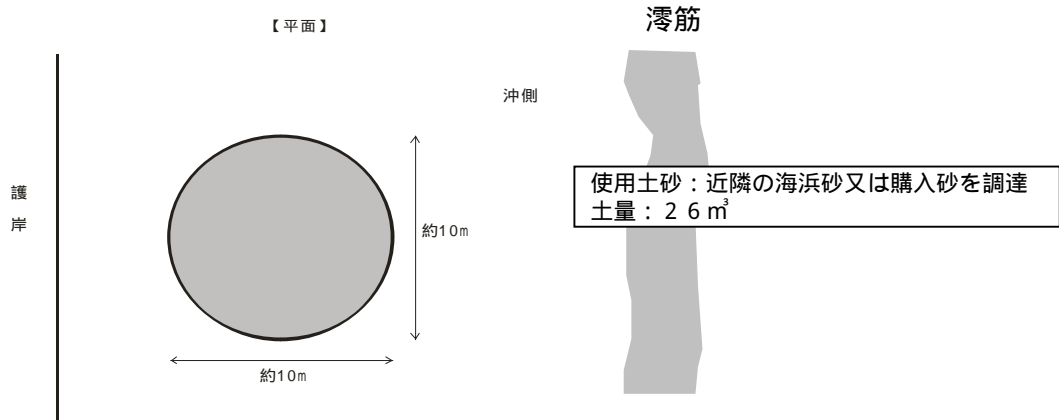


4 試験方法

市川塩浜2丁目護岸前面の海域において、護岸前面に天端高A.P. + 1.0m、直径10mの円状になるようにシルト・粘土分30%の砂を盛り、蛍光砂を用いて移動方向・量を調査する。試験期間は原則2ヶ月とするが、1箇所は試験期間を1年間とする。

【断面】





5 モニタリング計画

調査項目	調査方法	調査点数	調査頻度
地盤高	目盛り付き固定杭で測定	1地点	1日後、1週間後、2週間後、4週間後、2ヶ月後
移動方向	蛍光砂を利用して調査	8地点	(ただし、1ヶ所は4ヶ月後、6ヶ月後、1年後も調査)
マクロベントス	採泥器で採取	9地点	2ヶ月後(ただし、1ヶ所は4ヶ月後、6ヶ月後、1年後も)

6 試験でどんなことがわかるのか

- (1) 砂が動く。波、海流の異なる各地点で砂はどの位移動するのか。(範囲、量)
- (2) 生態系を壊さないで生物定着を見る。砂山や移動した砂にはどのような生物がつか。

7 試験結果を生かした目標イメージ

- (1) 干潟の再生
- (2) 洲・澗など干潟の微地形の再生



試験計画案4 猫実川における生物試験

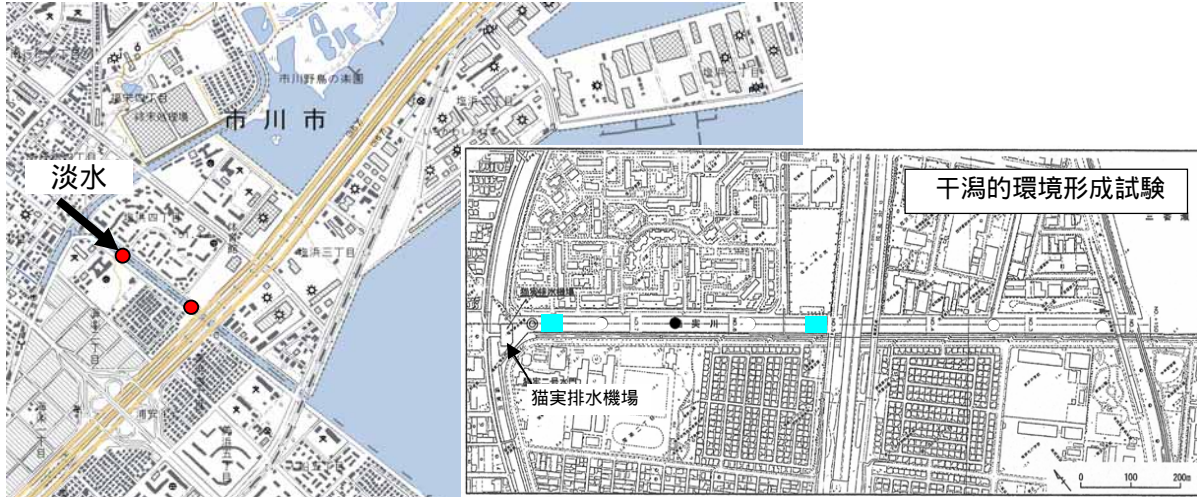
1 試験目的

猫実川の上・中流部を利用して、後背湿地形成の検討のための基礎資料を得る。(砂は動かない条件での、ヨシの生育の可否、生物の定着)

2 試験項目

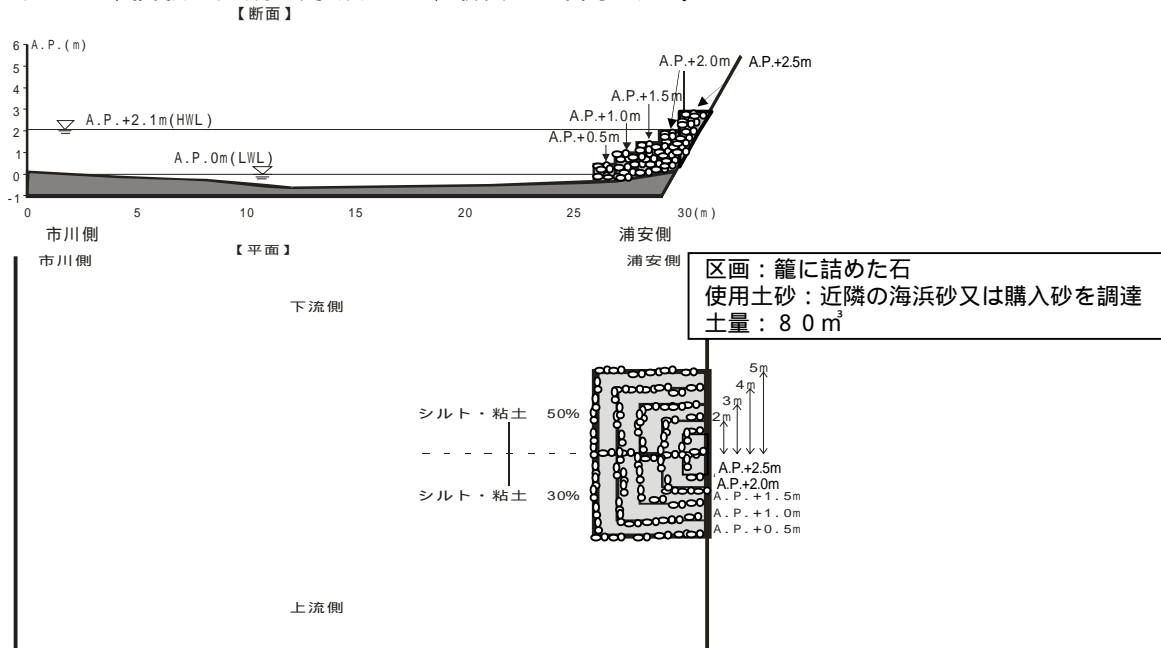
- (1)地盤高、底質別、淡水の流入状況別の生物の加入状況及び定着状況
- (2)ヨシの定着状況
- (3)地盤の安定性

3 試験場所



4 試験方法

猫実川の右岸(浦安側)護岸脇に、A.P.0m～A.P.+2.5mまでの5つの地盤高及び2種類(シルト・粘土分30%、50%)の底質の合計10試験区を設置し、地盤高の違い、底質の違いによる生物の加入状況及び定着状況を見る。また、上・下流部それぞれに試験区を設定することにより、淡水導入状況の違いにより生物の加入状況やヨシの定着状況の違いを確認する。生物の加入状況や砂の拡散状況を見ながら、試験の継続を判断するが、最長で3年間とする。



淡水供給あり・なし とともに同じ形状の試験区を造成する

5 モニタリング計画

調査項目		頻度
底生生物	カニ類等大型底生生物	4季
	マクロベントス	4季
	付着生物	4季
ヨシ生育状況	ヨシの本数、全長	4季
底質	粒度組成、酸化還元電子、強熱減量、含水比、COD、硫化物、塩分	4季
水質	水温、塩分、DO、T-N、T-P	4季

6 試験でどんなことがわかるのか

- (1) どんな高さ、どんな底質がどの生物に適しているのか。
- (2) 塩分濃度の違いでどのような結果の違いが出るのか。
- (3) ヨシが生息できる環境条件、湿地の適地

7 試験結果を生かした目標イメージ

- (1) 小河川の再生
- (2) ヨシ原・塩湿地の再生



試験計画案5 猫実川における砂移動試験

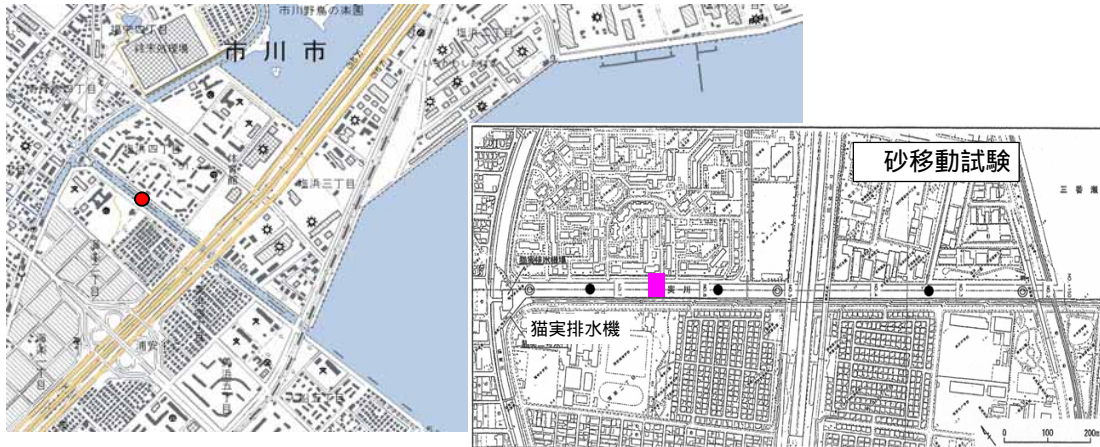
1 試験目的

猫実川の上・中流部を利用して、後背湿地形成の検討のための基礎資料を得る。(潮汐流の流れの中での湿地及び湿地内の澁の安定)

2 試験項目

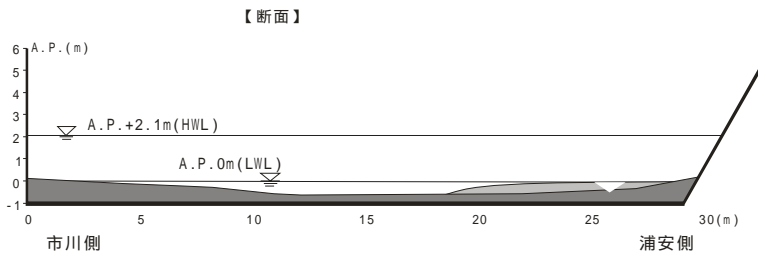
- (1) 砂の移動状況、澁の安定性
- (2) 移動する砂につく生物相の確認

3 試験場所

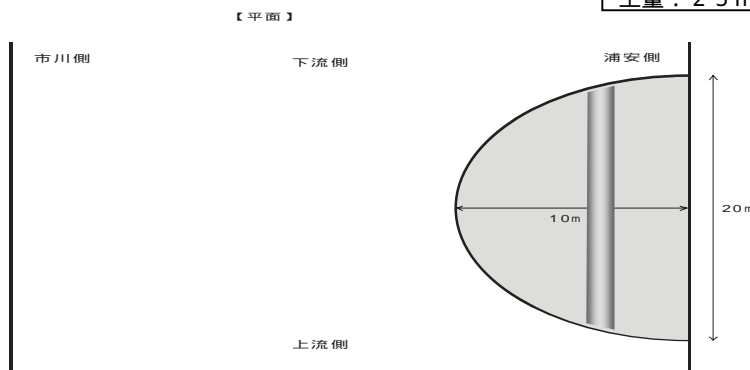


4 試験方法

猫実川において、天端高A.P.0.0m、半径10mの半円状になるようにシルト・粘土分30%の砂を盛るとともに、その中で澁を掘り、蛍光砂を用いて移動方向・量及び澁の安定性を調査する。試験期間は原則2ヶ月とする。



使用土砂：近隣の海浜砂又は購入砂を調達
土量：2.5 m³



5 モニタリング計画

調査項目	調査方法	調査点数	調査頻度
地盤高	目盛り付き固定杭で測定	1地点	1日後、1週間後、2週間後、4週間後、2ヶ月後
移動方向	蛍光砂を利用して調査	8地点	
マクロベントス	採泥器で採取	9地点	2ヶ月後

6 試験でどんなことがわかるのか

- (1) 潮汐流などで砂はどの位移動するのか。(範囲、量) 澁の安定に必要な底質条件
- (2) 砂山や移動した砂にはどのような生物がつか。

7 試験結果を生かした目標イメージ

- (1) 小河川の再生
- (2) 後背湿地の再生



三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会での検討状況について

回次	開催日・開催場所	検討内容
第1回	平成19年9月20日 (千葉国際総合水泳場)	1 三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会の設置について 2 千葉県三番瀬再生計画(基本計画及び事業計画)における干潟的環境形成等について
第2回	平成19年11月21日 (千葉国際総合水泳場)	1 平成20年度千葉県三番瀬再生実施計画(案)について 2 干潟的環境(干出域等)形成、淡水導入及び自然再生(湿地再生)について(意見交換)
第3回	平成19年12月19日 (千葉国際総合水泳場)	1 干潟的環境(干出域等)形成、淡水導入及び自然再生(湿地再生)について(意見交換) 2 干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入に係る試験計画、事前環境調査について
第4回	平成20年1月30日 (千葉国際総合水泳場)	1 干潟的環境(干出域等)形成、淡水導入及び自然再生(湿地再生)について(意見交換) 2 干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入に係る試験計画、事前環境調査について
第5回	平成20年2月29日 (千葉国際総合水泳場)	1 干潟的環境(干出域等)形成、淡水導入及び自然再生(湿地再生)について(意見交換) 2 干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入に係る試験計画について 3 事前環境調査等について
第6回	平成20年3月28日 (習志野商工会議所会館)	1 干潟的環境(干出域等)形成、淡水導入及び自然再生(湿地再生)について(意見交換) 2 干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入に係る試験計画について 3 事前環境調査等について
第7回	平成20年5月19日 (浦安市民プラザ Wave101)	1 干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入に係る試験計画について
第8回	平成20年6月9日 (千葉国際総合水泳場)	1 干潟的環境(干出域等)形成に係る試験計画について